

## 会報53号

		頁
1	ご挨拶	堀内浩太郎 1
2	第一回「YMEソーラー・人力ポートエキジビジョン大会」 事務局長の独り言・報告とお願い。八木正生	2
3	同上、写真集	深町得三 9
4	YMEに参加して下さった皆様へ	古坂太郎 13
5	ソーラー&人力ポートレース全日本選手権大会2007の参加者募集	八木正生 14
6	全日本選手権大会2007での技術フォーラム開催について	八木正生 21

## ご挨拶

今年は5月に例年になく特別のレースがありました。2007 横浜国際マリンエンターテイメントショー(略称 YME)の海上の催しとしてボートショー、ボート体験乗船などが行われたのですが、その折にソーラー・人力ポートのデモンストレーションもしくはレースも見せて欲しいと YME の海エコ部会長の古坂さんから要望があり、参加者の皆様のご同意を頂いて小規模なレースを実施することができました。参加されたチームの皆様、役員の皆様にはいろいろご負担を掛けましたが厚く感謝申し上げます。その報告を八木実行委員長に纏めて頂きました。また深町理事は大会時に数百枚の写真を撮られて、それを提供して頂きましたので、数頁に亘りご紹介させて頂きました。さらにまたこの大会の張本人である古坂太郎氏からはご挨拶を頂戴しましたので掲載させて頂きました。

八木さんが書かれている通り、やや狭い海上でしかも他のボートイベントと時間を分かち合うなかなか難しい運営だったようですが、何とか皆様のご努力のお陰で成功裡に終わることが出来ました。今回の会報はその報告が大きな部分を占めます。そして多分来年も同大会が行われることになりそうなので、今回参加されなかったチームの方も是非ご検討をお願い致します。

もう一つは7月28日、29日に行われる全日本選手権に係わることですが、参加者募集は締め切りを過ぎており、技術フォーラムも遅過ぎで殆どお役に立ちません。小生の怠慢で本号が開催日にさえ間に合うかどうか危ないところになってしまいました。この件については申し訳なく伏してお詫び申し上げます。

役に立たない会報でしたが、今年のレース当日の皆様の健闘を心からお祈り申し上げます。

## 第一回

### 「YMEソーラー・人力ボートエキジビジョン大会」

事務局長の独り言・報告とお願い。

2007年6月30日

JSHA 事務局 八木正生

はじめに

一月の終わりか、2月の下旬の頃、鎌倉の堀内会長よりお電話を頂いた。

「横浜でソーラーボートの大会の計画がありますが、参加してみませんか？」

との事であり、第一印象としては、2004・05年に大阪で開催したソーラー・人力大会の横浜バージョンを開催するくらいの事と思い、「後のことは、事務局で処理しますから」との話で電話を切った。この安請け合いが、この後の諸々の勘違い、すれ違いの発端であった。

今年のボートショーが横浜、みなとみらい地区の会場で開催されたのを機会に、ボートショウ会場内で「第1回横浜大会実行委員会」と言う名の顔合わせを開催した。日曜日の混雑した会場での人探し、一昔前の小説では、バラの花や、服装を目安に人を探したが、IT世代では、携帯電話で簡単に相手を見つけることが出来た。なんとも味気ない世の中になったものだ。

事前の自己紹介では、名前を古坂太郎、YME大会の海エコ部会長であり、アメリカボートの輸入業の社長との事でありました。マリン業界に良く見られる、日焼けか、ゴルフ焼けか、はたまた酒焼けか、浅黒い顔をしてダブルの紺ブレザーを着た、気障なおじさんを予想していました。携帯電話を片手に現れた社長本人は、スポーツシャツにブルゾン姿、一見して三〇代、体育会風のマッチョ野郎、女性週刊誌風に云えば、青年実業家の姿がそこにありました。

ボートショウのラウンジで、打ち合わせをしている時、耳の聞こえない身障者が、何か困っている所が目に入ると、私に話しを中断する事を詫びてから、席を立つと、その身障者のそばにより、手話で会話を始めました。姿は見えるが、当然声は聞こえない。

数分後、食事の注文が出来ないようなので、手伝ってきましたとの事。

私の周りにも、手話の講習会に云っているものは、数人いるが、聾啞者と差して手話の会話が出来ることに驚きました。

古坂さんは、高校生からアメリカに留学し、そこで、手話のボランティアをはじめたこと、帰国後、日本でも、手話ボランティアに参加したが、手話にも英語と日本語があるとのことでした。

古坂さんは、会話だけでなく、手話でも、バイリンガルでした。

ソーラー・人力ボート大会の予定地を視察することになり、赤レンガ倉庫のある、地域まで、移動しましたが、10 数年前会社の仕事で、数回訪れた建設途中で、砂ほこりが舞い上がる、西部劇を髭髯させる不毛の原野を思い出し、新デザインの高層ビルが乱立する、みなとみらい地区の様変わりに、啞然とさせられました。しかし変わらないものもありました、大会予定地の水のきたなさ、汚れ具合は、何も変わり無く、水面に映る近代ビルの姿だけが、変わっていました。

大会予定水面は、横幅 300 メートル、奥行き 70 メートルの俗称、“郵船プール”と呼ばれる水面で、競艇場の 4 半分程度の場所しかなく、この水面で、どのように大会をアレンジしてゆくか、頭が痛い所でした。

我々の大会を開催するのに当たって、競艇場のような水面を除き、一般的な共用水面を使用するときは、「国交省」に水面使用の認可を取ることが必要となります。

現在も、2007 清水大会に向けてこの許認可申請を行っていますが、以前の大阪大会、今回の YME 横浜大会共に、大会の協賛団体の中に国土交通省、地元自治体が参加されているため、スムーズに認可を取ることが出来たと聞いています。

大阪大会のときは、大阪城近くを流れる大川の半分を一般船の交通用に、残りの半分以上を大会用に分割してもらいました。

YME 横浜大会は、郵船プールという名前の通り、昔は、日本郵船の用船の船溜りとして使用された水域であり、現在はほとんど使われて無くても、何かと厄介なことになるかと思われましたが、我々が要望した競技水面を大きく取った形で受け付けて頂きました。それでも、申請の窓口業務を担当して頂いた古坂さんは、十数回に渡り窓口を足運んだそうです。

2005 年の夏の本大会からは、マリンスポーツ財団の委嘱事業ではなく、大会参加者と協会で作上げる“自主制作の大会“で行って来ました。

一方 2004、05 年の春に開催した大阪大会は、逆に金銭面、運営共に協賛者をお願いしてまいりました。

当初に、この辺の金銭面の話を決めてから、YME 横浜大会の参加の可否を決めるべき所を、“参加しましょうモード”で、話は進んでゆきました。

最終的に本年度は、ソーラー・人力大会には、YME 大会本部からの援助金は無いこと。大会当日の運営面でも、人員は全て JSHA 協会で行うことがわかった。JSHA 協会事務局として、金庫の金も底を着いている現状で、頭を悩ましていると、古坂さんより、参加者の皆様に横浜での宿泊代を援助して頂けるとの話があり、喜んでお受けすることにしました。

JSHA 協会が協賛金を受取り、参加者・役員の宿泊費援助、交通費援助、に使わせて頂きました。残金の 5097 円は、JSHA 協会の会計に組み込みさせて頂きました。

この協賛金のおかげで、協会の会計に大穴を明けずに済ませることが出来ました。

レースの時間が足りません。

今までの大会では国交省の認可の関係より大会の水面は、終日使用可能であったが、今回は、この狭い郵船プールの水面を、水上バイク、カヌー、ディングー、キッズボート、それに新参者のソーラー・人力ボートの5つの参加団体が協議して時間の配分を決めることとなります。ソーラー・人力ボートの競技時間に割り当てられた時間割りは、昼休みの時間帯と午後の最終時間が割り当てられました。

競技時間は、1時間×2回×2日 ボートの上架、下架の時間は、別途とすることを条件に、(もう少し長く時間を取りたかったが)、やむ終えず、了承することになりました。

大阪から、600kmトラックを運転して10時間かけて横浜たどりについて、競技時間は2日間だったの4時間と言うチームもありましたが、12チームのみの参加と参加チームの少ないのが幸いし、参加チームの協力もあり、何とか決められた時間内で無事に終わることが出来ました。

助っ人探し・

運営サイドの人の配置も補助されないことが決まり、途方にくれていると、間の悪いことに、JSHA協会、競技部会長の内山さんが海外出張となり、横浜大会には、参加できない事が判った。

浜松在住の頃は、JSHA協会の活動にいろいろと御尽力をお願いした、小野さんが、横浜に住んで居られる事を思い出し、コンタクトを取りました。

現在もヨット関係の活動でお忙しいのに関わらず、大会の助っ人になって頂けるとの快諾を得る事が出来た。「ほんとうにありがとうございました」この文をお借りしてお礼申し上げます。

内山さんの代役は決まった。後は、計測員3名を見つけ出すしかない。

急遽、横浜大会に参加する学生チーム、メールを発信し、「アルバイト募集・レースを一番良い位置で観戦できます」のキャッチコピーで募集したところ、大学生のアルバイトにしては、格安の料金にもかかわらず、静岡理工科大学の有志に快く受けていただいた。

このアルバイト代は、協会からの持ち出しになると、諦めていたが、結果としては、横浜近郊の方が、自宅での宿泊と成った為に、宿泊費援助金が余り、その分にて充当できました。

競技報告

大会スケジュールを下記に示す

大会水面・・・・・・赤レンガ倉庫前運河

5月26日(土):

5月27日(日)

07:00~9:00

駐車場開錠、艇体組立、

09:00-10:30	受付、船舶検査	受付・準備
11:00-	選手ミーティング*	選手ミーティング*
12:00-13:00	ショートレース予選ラウンド*	30分耐久レース
13:00-15:30	キッズボート・カヌー航走	キッズボート・カヌー航走
15:30-16:30	ショートレース決勝ラウンド*	エキジビション航走
16:30-	上架後、展示場に移動	上架後、解散

主管 日本ソーラー・人力ボート協会  
 主催 横浜国際マリンエンターテイメントショー運営委員会  
 共催 横浜港ボート天国実行委員会、第26回よこはま開港祭実行委員会  
 協賛 財団法人マリンスポーツ財団

大会運営 ソーラー・人力ボート横浜大会2007実行委員会

連絡先

日本ソーラー&人力ボート協会  
 横浜事務局 〒236-0007 神奈川県横浜市金沢区白帆3-4シーサイドピアビル F3  
 横浜国際マリンエンターテイメントショー運営事務局  
 日本ソーラー・人力ボート協会 横浜事務局 古坂太郎  
 TEL045-772-0070 FAX046-733-5

競技内容

ショートレース予選ラウンド\*・・・単独航走による100m区間のフライング計測  
 ショートレース決勝ラウンド\*・・・3艇同時航走による100m区間のフライング計測  
 30分耐久レース・・・約150メートル間隔に設置した2つのブイを右旋回に30分間で周回できる回数を競う競技（全艇同時航走）  
 ゼッケン番号・・・・・・昨年の清水大会にて決定した番号を使用。

参加チーム及びゼッケン

		チーム名	ゼッケンナンバー
ソーラーボート	Aクラス	ローランドソーラー研究会	4
		JRC ソーラーボートチャレンジの会	3
	Bクラス	静岡理工科大学 SAT	23
		東海大学ソーラーボート シーガル A	26
		東海大学ソーラーボート シーガル B	27
人力ボート	Aクラス	チームコギト	42
	Bクラス	team ビレッジトップ	62
		ひょうたん島	69
		GLラボ	63

スイングロールフリッパー	61
ウッドシーカヤッククラブ	73
FRP が固まらんチーム	64

## 競技結果

### ショートレース決勝ラウンド

クラス	順位	艇番	チーム名	船名	決勝タイム(参考)
ソーラー A	1	4	ローランドソーラー研究会	ソーランド 号	00:13.67
	2	3	JRC ソーラーチャレンジの会	そうらのむんべい	00:18.94

クラス	順位	艇番	チーム名	船名	決勝タイム(参考)
人力 A	1	42	COGIT O チーム	COGITO-R2007	00:14.67

クラス	順位	艇番	チーム名	船名	決勝タイム(参考)
ソーラー B	1	27	東海大学海洋学部チーム・B	シーガル B	00:29.60
	2	26	東海大学海洋学部チーム・A	シーガル A	00:36.13
	3	23	静岡理工科大学SAT チーム	STR	01:06.76

クラス	順位	艇番	チーム名	船名	決勝タイム(参考)
人力 B	1	69	ひょうたん島	エスペラン	00:26.08
	2	64	FRP が固まらん チーム	グッピー	00:27.01
	3	62	TEAM ビレッジトップ	ショウゾウ君1号	00:27.20
	4	73	ウッド・シーカヤッククラブ	チェス 14	00:34.41
	5	63	GL ラボ	フィスカル 07	00:41.46
	6	61	スイングロールフリッパー	エディアカランズ	01:09.47

### 30分耐久レース

順位	艇番	チーム名	船名	周回
1	3	JRC ソーラーチャレンジの会	そうらのむべい	14
2	62	TEAM ビレッジトップ	ショウゾウ君1号	14
3	27	東海大学海洋学部船舶海洋工学科チーム・B	シーガルB	14
4	42	COGITO チーム	COGITO-R2007	13
5	69	ひょうたん島	エスペラン	13
6	64	FRPが固まらん チーム	グッピー	13
7	73	ウッド・シーカヤッククラブ	チェス14	12
8	26	東海大学海洋学部船舶海洋工学科チーム・A	シーガルA	11
9	63	GL ラボ	ブィスカル07	9
10	23	静岡理科大学 SAT チーム	SAT	8
11	61	スウィングロールフリッパー	エディアカラズ	7

#### 大会雑感

耐久レースのマーク設定を、上マーク、下マークの2つのマークを回るコースから、

7つのマークを回るスラロームコースに変更してから10年近くになる。

競技水面の狭さより、やむ終えず以前のコースに戻して、30分耐久レースを行ったところ、コース取りの面白さを改めて思い知らされた。

水中翼艇のコギトは翼走時間を長くするため、極力回転半径を大きくする努力をしていたが、翼形状の関係か、エンジンパワーの関係か低速での翼走はやはり難しそうであった。

JRC、ビレッジトップ、東海大学シーガルBの3艇は、船型はラウンドボトム、サイドフロート付ラウンドボトム、V型モノハル艇、と船型、船長の異なる3艇のマーク回航の取り方の優劣で順位が入れ替わるデッドヒートを見せて頂いた。

参加者、会員の皆様へのお願い。

YME ソーラー・人力ボートエキジビジョン大会をどのように今後続けてゆくかの問題です。参加者から、止めるべきとの意見が多ければ、問題は、別ですが、私なりの考えですので、異論、もっと良い改善案、など、有ると思います。皆様のご意見は、協会宛にメールしていただけたら幸いです。

まずは、金銭面より考える。

今回の大会での協会として支払った総金額は、約25万円、(そのほとんどは、古坂さんからの賛助金です)、参加者への援助金総額、15万円、残りの10万が、協会

関係者の経費、運営費である。

来年の YME 横浜大会に継続参加する方法を考える。

その 1. 本年同様、25 万円の賛助金を負担してくれるスポンサーを探す。

その 2. 夏の本大会のように、参加者への援助金を無くせば、今回と同程度の大会を 1 艇、1 万円の参加費用で、継続可能。

その 3. 日曜日 1 日の競技日程に変更すること、参加チームを 15 艇まで枠を増やすことを実施すれば、参加費用を 6000 円程度まで縮小できる。

但し、ポンツーンの設定費用、救助艇、警備艇の借用費用、操縦者の謝金などは、YME 大会本部が負担している現状を踏襲した場合である。

その 1. については、横浜、東京に在住している皆様に御願ひするしか有りません。JSHA 横浜事務局として、古坂さんが探していただけるとの話は有りますが、この大会のスポンサー探しは大変難しいものと思います。

その 2. この案が一番現実の可能性のあるものと思われる。大会参加者の同意が得られることが、先決。

その 3. JSHA 協会としては、一番良好、但し、他の参加団体からの同意が必要、土曜日は使わないから、日曜日 2 倍使わせての論理が通用するか。

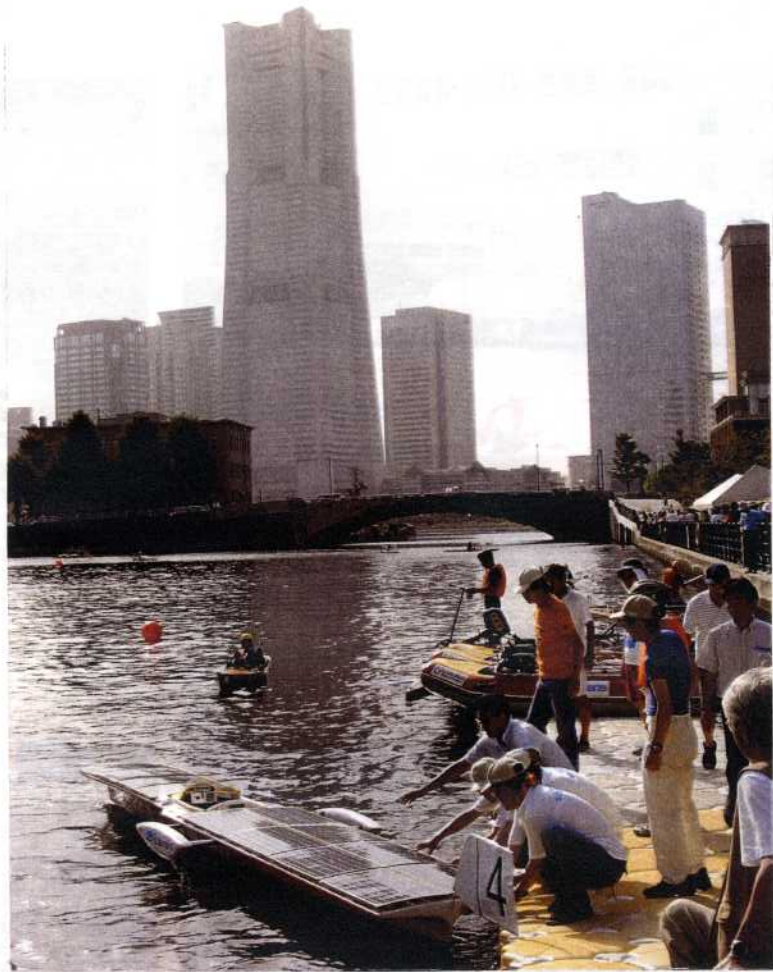
その他、運営面から、ボランティア要員の確保、種々検討個目があると思います。参加者、JSHA 協会関係者で検討して本年末までに方針を決めることにしたいと思います。

本年は、横浜の地での初めての開催であり、古坂さんをはじめ、他の参加団体の皆様には、いろいろとご迷惑をお掛けしたとは思いますが、何とかぎりぎり及第点を頂ける「YME ソーラー・人力ボートエキジビジョン大会」として、終了することが出来ました。これも皆様のご支援とご協力の賜とっております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

以上





いざ出艇、緊張の台船。高層ビル、人だかり、何時もとは違う風景。



30分耐久、発艇前の緊張



ソーラーA 2位、JRC ソーラーチャレンジの会  
「そうらのむべい」



ソーラーB 2位、東海大学海洋学部チーム・A  
「シーガルA」



ソーラーA 優勝、ローランドソーラー研究会  
「ソーランド号」



ソーラーB 優勝、東海大学海洋学部チーム・B  
「シーガルB」



ソーラーB 3位、静岡理工科大学 SAT チーム  
「STR」



人力A 優勝、COGITO チーム  
「COGITO-R2007」



人カB 6位、スイングロールフリッパー  
「エディアカランズ」(ローリングで推進)



人カB 2位、FRPが固まらん チーム  
「グッピー」



人カB 3位、TEAM ビレッジトップ  
「ショウゾウ君1号」



人カB 優勝、ひょうたん島  
「エスペラン」



人カB 5位、GLラボ  
ブィスカル07 (層流櫓推進)



人カB 4位、ウッド・シーカヤッククラブ  
「チェス14」(ペダル推進木製カヤック)



人力最速の COGITO (左) とソーラー最速のソーランド (右) のデッドヒート



美女の踊りも見られたようで

# Japan Marine Sports Corporation

We Deliver The Boating Dream to you

**Donzi & Chris Craft** Boats of Japan

〒236-0007 横浜市金沢区白帆 4-3 3F

Tel: 045-772-0070 Fax: 045-225-9774

YME ソーラー・人力ボートエキシビジョン大会に参加して下さった皆様へ

この度は、『2007年 横浜国際マリーンエンターテイメントショー』の“海エコ”部門でのソーラー・人力ボートエキシビジョンが参加者の方々全員のご協力でご好評の上、無事に開催出来ました。

関東横浜では初回という事もあり、出場選手の皆さんにはいつもの競技と違って不都合を感じた方々も少なく無いと思いますが、それらを乗り越えてのご協力を頂いたお陰で良い結果が出せた事を感謝いたします。私は、24年間のアメリカ生活を経て日本に4年前に帰国しましたが、在米中の21年は、本場でもあるアメリカのマリーンビジネスで過ごしてきました。まだまだ日本については、勉強中ですが、私が育ったアメリカでは、このようなイベントは、殆ど毎週の様到处かで開催されています。ローカルの方々が、自作で作ってきたボートから小学校の工作でクラス単位で作ってきたボートなどで気軽に参加し競う楽しいイベントがあり、メインイベントである今回のようなハイクボートの競技があり、また Off the Circuit (本競技以外での) の全く別な形で、ハイクチームもローテクチームも同じレベルで競い合えるイベントもあり、とても和気藹々と“海エコ”の名の下 楽しく水辺での遊びを行っています。

その楽しい遊びの反面、水辺での遊びは、勘違いをしてしまうと大きな危険と背中合わせです。また“エコ”を考えていかなくは、このような楽しい遊びも将来無くなってしまふ可能性があります。そのイベントの中で学び、大人も子供もそれぞれに海や水辺で遊ぶときに役に立つ事ごとを学ぶ大切な場面でもあります。

その知恵や思想が日本に合った形で普及するように、私たち海エコ関東事務局として次回のイベントに向けて競技が出来る様に努力したいと思います。また横浜国際マリーンエンターテイメントショーの開催場所は、運営の仕方によっては、多くの人々を魅了し多くの方々に海の遊び、楽しみ方を知って頂くのに最適な場所であり、このイベントを通して多くの方々と環境にインパクトがあり、日本ソーラー・人力ボート協会の選手が自慢に思える良いイベント競技が開催できる様に今後共に努めて行きたいと思ひます。

参加選手で今後のイベントのために、こんな、あんな行事とアイデアがありましたら、関東事務局は、いつもオープンマインドでウエルカムですのでご意見等をお寄せ下さい。

今年の横浜国際マリーンエンターテイメントショーにご参加頂きまして、本当に有難うございました。来年のイベント競技へのご参加を心よりお待ちしております。

古坂 太郎

日本ソーラー・人力ボート海エコ関東事務局

各位

2007年6月吉日



主催：日本ソーラー&人カボート協会  
共催：財団法人マリンスポーツ財団  
共催：東海大学海洋学部

## 全日本選手権大会2007の参加者募集

皆様、益々御清祥の事とお慶び申し上げます。今年のレース開催に付参加者を募集します。会員の皆様方におかれましては、新入生、新入社員等、新しいスタッフを迎え入れ 新艇の構想、製作に向け邁進中の事と思えます。既にホームページ上でご案内しておりますので 見た方も多いと思いますが、今年も昨年と同じく、東海大学海洋学部共催に加え、清水港三保内浜海岸にて、昨年より1週間遅らせて、7月の最終週に移して開催いたします。現在、関係官庁や地元企業、商店街等に開催のための許認可、後援、協賛等の働きかけをしているところです。

### レース会場と船検場所

昨年は、レース会場と船検場所が異なり、参加者の皆様方には、大変お手数をおかけしました。本年の、船検会場は、レース海面と同じ、三保内浜海岸で行います。参加者は、駐車場より内浜海岸に特設された、各艇のパドックに艇を運び組立て後、大会本部に船検を申請ください。27日(金)は船検合格後14:00より試走、スタート練習が可能となります。

レース会場は(三保)内浜海水浴場の一角を、特定水域として認可を受け、開催いたします。ここは、東海大学海洋科学博物館のすぐ西側に位置し、夏場は海水浴場としてもにぎわいます。一般のお客さんにもソーラー&人カボートの大会をアピールする良い機会になると思えます。レース当日は、浮き桟橋を一ヶ所用意しますが、浜から直接レース海面に出ることも可能だと思えます。レース海面は波も穏やかで、渚から5、6M沖はかなり水深が深く、ボートの走行に問題はありません。浜の陸側にはコンクリートの遊歩道と2段の幅広階段、さらに芝生があって、ここを各チームのパドックとします。土曜日のウエルカムパーティーは、東海大学海洋科学博物館の敷地をお借りして実施する予定です。ウエルカムパーティー前には、レース海面で地引き網の催しも計画しております。是非ご参加下さい。

検査で改造の必要となった艇、又修理が必要な艇は、設備が整った東海大学の作業場が借用可能です。そこで簡単な修理や調整ができると思えます。設備使用後は各自、「使用前よりきれいに！」を徹底して下さい。

### 駐車場と宿泊施設

近くにある1日500円の民営駐車場も含めて、100台程度のスペースを確保出来る予定です。ただし、大会当日は一般の海水浴客や、ジェットスキー、ウインドサーフィン愛好者も集まります。車はできるだけ各チーム1、2台で来ていただきたいと思えます。輸送にトラックを使うチームは、参加申込書に「トラック駐車場欲しい」と書いて提出下さい。

宿泊施設は、会場近辺に民宿が3軒ほどあり、それ以外にも近辺にあります。夏場は予約が一杯になるようです。早い時期に予約する事をお勧めします。昨年末に開設した、温浴施設(温泉施設ではありません)のパフレットを参考にしてください。(3800円で1泊です)東海大学内でキャンプをすることも可能です。ただし、火気の使用は禁止になっています。お弁当は、大学出入の業者に各チームが事前に申し込み、当日パドックに届けてもらう様に計画中です。

### 参加登録料の減額

「大会の費用は、参加者の登録料で賄う」という独立採算制で、開催して、今年で3年目になります。実行委員会の会議でも紛糾しましたが、この大会を活性化させる為、参加登録料を「35000円」に減額いたし。ソーラー&人カボートレースがより充実した大会となるよう、昨年より1チームでも多くの参加をお待ちしています。

2ページと7ページの必要箇所を記入して、協会事務局に郵送、FAX、メール(web pageより入手)何れかで、返送ください  
**ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2007年 “参加申込書”**

1 チーム名 \_\_\_\_\_ 通信欄：今年度の目標その他一言 \_\_\_\_\_

2 船名(仮名で可) ◎艇の全長・全幅を記入ください。(保険申請用) \_\_\_\_\_

3 代表者名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

4 代表者住所 \_\_\_\_\_  
〒 \_\_\_\_\_

5 連絡担当者名 \_\_\_\_\_

6 連絡担当者住所 \_\_\_\_\_  
〒 \_\_\_\_\_

7 連絡先電話番号 & E-mail \_\_\_\_\_  
(常時連絡が付かない場合は、時間帯を明記)  
Tel \_\_\_\_\_  
E-Mail \_\_\_\_\_

8 チームの構成者(該当する方に○印をお付け下さい)  
( ) 学生チーム ( ) 一般チーム

9 参加申し込みクラス(どれか一つに○印をお付け下さい)  
( ) ソーラーボート部門・A クラス ( ) 人力ボート部門・A クラス  
( ) ソーラーボート部門・B クラス ( ) 人力ボート部門・A クラス  
( ) ハイブリット部門

10 参加申し込みレース種目(参加レースに○印お付け下さい・追加費用は、不要です。)  
(○) ショート・レース 予選100m, 順位決定戦200m ※ショートレースは、全艇参加と成ります。  
( ) ロング・レース 一周スラロームレース  
( ) ロング・レース 30分周回耐久レース  
( ) ロング・レース 1時間周回耐久レース

11 レース艇搬入トラックについて  
レース艇の搬入トラックの駐車場 ( ) 協会の指定場所を使う ( ) 使用しない

12 キャンプの希望について  
( ) キャンプを希望(テントは各自持参、火の使用は不可) ( ) 希望しない

13 ウェルカムパーティーの参加人数と弁当の手配方法  
ウェルカムパーティー参加人数( ) 人  
大会当日の弁当の手配は、添付したパンフレットの通り、(株)静岡富士サービスに直接申し込みください。

14 振込み金額 ・振込み予定日  
参加登録料(35000円)+賠償保険料(1乗り¥3180. 2乗り¥3550.)=送金金額 ( ) 円  
振込み予定日 7月 13日・同封の郵便振込用紙をお使いください(締切日・7月13日以前に送金ください)

2115

# 日本ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2007 大会スケジュール

大会開催日時 2007年7月27, 28, 29日

7月27日(金):三保内浜海水浴場

08:00~12:00 大会準備、(受付・船舶検査&会場設営、コース設定等)  
12:00~17:00 受付・船舶検査  
14:00~16:00 試走・スタート練習

7月28日(土):三保内浜海水浴場

08:00~09:00 大会準備 (受付・船検)  
09:00~09:30 開会式  
10:00~12:00 ショートレース予選ラウンド (100m)  
12:00~13:00 昼休み・イベント(サーフボートレース)  
13:00~15:00 ショートレース順位決定ラウンド (200m)  
15:30~17:00 イベント(地引き綱)  
17:00~19:00 ウェルカムパーティー

7月29日(日):三保内浜海水浴場

09:00~09:30 一周スラロームレース  
09:45~12:30 オーシャンパドラー長距離レース  
10:00~11:00 30分周回耐久レース  
11:30~12:30 昼休み・イベント(サーフボートレース)  
12:30~14:00 一時間周回耐久レース  
14:30~15:00 表彰式・閉会式

大会開催場所 清水港内 三保内浜海水浴場  
静岡県静岡市清水区三保

大会参加締め切り 2007年7月13日(金) 参加申込書を郵送・FAX・Eメール何れかで返送ください。

主催 主催:日本ソーラー・人力ボート協会  
共催:財団法人マリンスポーツ財団  
共催:東海大学海洋学部

大会運営 ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2007実行委員会

連絡先

日本ソーラー&人力ボート協会

事務局 〒431-0102 静岡県浜松市西区雄踏町宇布見600-234

八木 正生

Tel/Fax 053-596-2170

E-Mail jsha@orange.ne.jp



## I 参加案内

参加資格は、このレースに参加する目的で、ソーラーエネルギー、人力エネルギーを動力とするボートを、各自大会会場に搬入し、船舶検査を受け合格した艇とする。

### 1 参加手続き

- 1) この冊子に添付されている、“参加申込書”に必要事項を記入し、期限内に参加申し込みをする。  
申し込み期限は、2007年7月13日消印とする。FAX・メールでの申し込みも可。
- 2) 参加チームには、別途必要事項等を、実行委員会から連絡する事がある。
- 3) 参加チームは、大会参加費を協会指定の口座に、7月13日までに振り込むこと。

### 2 レースカテゴリー

	部門	クラス	推進エネルギー	水中翼
1	ソーラーボート部門	クラスA	480W	可
2		クラスB	100W	不可
3	人力ボート部門	クラスA	2名まで可	可
4		クラスB	2名まで可	不可
5	ハイブリッドボート部門		100W+1名	可
6	オーシャンパドラー部門	5クラス分割		不可

※ハイブリッドボート部門は、ソーラー発電・人力併用部門で、クラス分けは行わない。全5クラスとする。

※オーシャンパドラー部門は、実行委員会の作成したオーシャンパドラーレギュレーションによりクラス分けを行なう。

### 3 競技

#### ショートレース(全艇参加)

- ・ 予選ラウンドは、100mで一艇ずつのタイムトライアルとする。  
(全クラス共通、参加艇が定められた時間帯の中で一艇ずつスタートしタイムを記録する。  
予選ラウンドのタイムにより決勝ラウンドのヒートを決める)  
(予選ラウンドは、時間内で有れば複数回の航走を認め、ベストタイムを艇の記録とする。  
但し未記録艇を優先しタイムトライアルを実施する。運営側の指示に従って下さい。)  
(予選ラウンドのタイムは、決勝ラウンドの各ヒートへの出場資格を得る、出場艇数によりヒート数を決定。)
- ・ 決勝ラウンドは、最大6艇で200m間の順位で争うレース。  
(各決勝ラウンドのタイムは、各レース内でのみ有効とし最終順位には関係しない。  
したがって1位～6位決定ヒートへの出場艇は、6位以下には成らない。)

#### ロングレース(3種目中一種目は必ず参加、複数レースへの参加を歓迎する)

3種目とも同一コースでレースを実施、予め募集したエントリー艇により、部門混合で一レースで順位を決定する。

#### 1) 1周スラロームレース

出場艇全艇が一斉にスタート、一周してゴールする。ゴールした順に順位を決定する。

#### 2) 30分周回耐久レース

出場艇全艇(部門混合)が同時スタート、約30分後にゴールした周回数で順位を争う。  
(周回数の多い順に順位を付ける、同一周回数の場合は、最終周回数のタイムの早い艇を上位とする)

#### 3) 一時間周回耐久レース

出場艇全艇(部門混合)が同時スタート、約60分後にゴールした周回数で順位を争う。  
(周回数の多い順に順位を付ける、同一周回数の場合は、最終周回数のタイムの早い艇を上位とする)

## II 保険について

大会に参加する艇は、大会期間中(2007年7月27日12:00~29日17:00)は賠償金額5000万円の主催者が、用意する保険に加入をしておくこと。独自で用意できる場合は参加申し込み時に主催者に届け出る事。

賠償保険内容 (賠償金額 5000万円:搭乗者障害300万円/1人 :1事故保険金額 300万円)

賠償保険料 1人乗り舟艇.....3180円 2人乗り舟艇.....3550円

## III 賞について

5つの各クラスにおいて、ショートレース、ロングレース(3レース)の上位チームを表彰する。  
但し、クラス別出場者が、6艇以上..3位まで:5艇~4艇..2位まで:3艇~2艇..1位のみ:1艇の場合表彰せず

学生チームに付いては、申し込み時チーム構成を学生チームとして登録したチームより選出する。  
学生優勝は、クラスに関係無く、ソーラー部門、人力部門各1チームのポイント点数により上位一艇を表彰する。

### 学生優勝のポイント

ソーラー部門、人力部門共に協会の定める2つのレースで、共に完走をしていること。

協会規定で定めているレース

ソーラーボート部門      ショートレース(200m)      +      (※) 一時間周回耐久レース  
人力ボート部門      (※) ショートレース(200m)      +      一周スラロームレース

※印は、同点の場合の優先レースを示す  
スポンサーが付いた時のみ商品を授与する。

学生登録された艇に対して、各レース毎に学生のみ順位を付ける。(ソーラー・人力艇混合の順位)

各レースの順位を合計して、合計点の少ない艇を各部門優勝艇とする。

合計ポイントが同じ場合には、人力部門はショートレース、ソーラー部門はロングレースの上位艇を優勝とする。

## IV 参加登録料について

参加登録料を支払うことにより、全てのレース(5種類)に参加する権利を有する。 35,000円

参加登録料は、同封の郵便振替払込書で7月13日までに振込みをしてください。

(郵便局 00810-8-26224 日本ソーラー・人力ボート協会)

複数艇を参加されたチームには、参加登録料の減額を実施します。

既存のチームと既存のチームが合同して新チームを新設する場合は、6ヶ月間の経過期間が必要です。

参加艇数	参加登録料	参加艇数	参加登録料
1艇参加	35,000円	5艇参加	125,000円
2艇参加	60,000円	6艇参加	140,000円
3艇参加	85,000円	7艇参加	155,000円
4艇参加	105,000円	8艇参加	170,000円

## V 船体識別番号(ゼッケンナンバー)の付与

艇体番号は、昨年の清水大会に参加した艇は、昨年使用した艇体番号を付与します。

昨年大会に未出場の艇体については、実行委員会より、新ナンバーを付与します。

新ナンバーは、参加申込書を受取り後に、チーム連絡担当者に御知らせします。

2007年大会会場（図中、四角に1と書いてある場所です）



## 誓約書

私は、ソーラー・人力ボートレースの大会競技において、  
 ルールとマナーを守り、安全に競技することを誓います。  
 万一、きょうぎ実施中事故がおきても、私の責任において解決し、  
 主催者に対し迷惑をかけることはいたしません。

チーム名	
艇名	
代表者	住所 氏名 <span style="float: right;">印</span>
選手	住所 <span style="float: right;">印</span>
選手	住所 氏名 <span style="float: right;">印</span>
選手	住所 氏名 <span style="float: right;">印</span>
選手	住所 氏名 <span style="float: right;">印</span>

## 参加同意書

選手が、18歳未満の際は、保護者の同意を必要とします。

選手氏名	
保護者氏名	印
選手氏名	
保護者氏名	印
選手氏名	
保護者氏名	印
選手氏名	
保護者氏名	印



2007年6月吉日

## 全日本選手権大会2007での技術フォーラム開催について

大会参加予定者各位

今年の大会準備もいよいよ佳境に入っています。参加予定チームの皆さんも最後の追い込みに忙しいことと思いますが、今年の大会において、参加艇の性能、建造技術の向上を図るための仮称「技術フォーラム」を開催したいと考えています。

5月の横浜大会に参加したチームは、当日、各艇の紹介パネルを展示したことをご記憶と思います。今回のフォーラムは、それを更に一歩進めて、ソーラー・人力ボートの性能、建造技術の向上に関して、参加者有志で、情報交換する場として考えています。

各チームが他に自慢できるポイント（例えば、超軽量だとか、ぶつかっても壊れないだとか（笑）、また反対に、こんなことが知りたいが、欲しい情報が見つからないという声（例えば、カーボン繊維の入手法や、模型飛行機のプロペラからどうやって人力ボートに適したものを選ぶかとか、自転車のチェーン周りを駆動装置に利用する時のコツなど）を、ざっくばらんに話し合うことが目的です。

場所と日時は、東海大のご協力を得て、下記の要領で実施する予定です：

記

開催日程：2006年7月27日（金） 16：30～18：00

開催場所：静岡市清水区折戸 東海大学海洋学部 3号館

以上

会場は、エアコンも効いて、蚊に刺される心配もありません。各チームが持ち寄った資料を見ながら、自由に討議し、また、1、2のテーマについてポスターセッションのように、簡単な発表もしてもらえればと考えています。

皆さんのアイデアで、より有意義な場にしたいと思っておりますので、ご意見がありましたら、どしどし、主催者あてにメール等でお知らせ下さい。

2007年清水大会実行委員会

